

(図書資料を活用して、活動に見通しをもたせる)

(特別支援学級) 活動名 どんな活動? 見通しをもとう
 実践者 新作小学校 田淵由美

1. 平成 18 年 6 月 ~ 12 月

2. ねらい

図書室の本や資料を子どもたちとともに見ることによって、授業や行事への見通しをもつことができるようにする。

3. 活動の流れ

活動及び取り組みの流れ	支援
校外学習への見通しをもつ ・ 遠足 ・ 社会見学 ・ 自然教室 ・ 修学旅行 等	・ 行き先に合わせて、本や図鑑を見せた。また、イメージをふくらませるために、関連のある本を読み聞かせをした(水族館への校外学習 スイミーなど)。 ・ 修学旅行の事前学習として、日光に関する本を用意した。お土産、名産品のページを見ながら、買って帰るお土産も考え、わくわくした気持ちを高めていた。また、行程を写真で見て確認ができた。 ・ マナーに関する本の活用。電車の中でのマナー、寝泊まりするとき、食事の時などに気をつけることを、絵を見ながら考えさせることができた。
生活単元学習 ・ 調理学習 ・ 栽培学習 等	・ 料理の本、植物・野菜の本などをみせることによって、何を料理するのか、どのような野菜を育てるのか、イメージをもたせることができた。他のページを見ながら、「次はこれをしてい!」と、次回への意欲づけにもなった。

4. この取り組みによって、子どもにどのような変化(成果)がありましたか。

特別支援級の児童は、“見通し”をもつことが活動に取り組むための大きな力となる。本学級には、口頭での話や文字から理解することが困難な児童が多い。しかし、視覚優位で、絵や写真が、興味を高め、理解の手助けとなる。そのため、図書室の豊富な資料が有効であった。文に加え、絵や資料を合わせてみせることによって、子どもたちが活動に対してイメージをもち、安心して学習したり、行動したりすることができた。

図書室資料を活用するにあたっては、情報量が多すぎないか、子どもにとっての見通しとしてふさわしいか、資料を精選し、また、提示の方法に配慮することが必要であると感じた。